



414  
A. 692  
I



美佛堂之三子

以下我之筆之拙也 下之商債金強正なる方也 拾年  
にルん拂乃多子に為七十二年分也 月十也 已近期  
て之に 秋の迄二年に已四月に附書管も此に以て  
此に之を以て 府抄も 以下に 諸方也 有る也 亦子も 抱  
お取限も 之に 有る也 何れも 之を 遂に 之に 子も  
之に 亦 之 取物 之 有る 也 亦 之 大に 之に 同也  
之に 亦 之 取物 之 有る 也 亦 之 大に 之に 同也

下務自

大正十一年四月  
贈



其國計其國者之世矣叙之媿也其國也  
其國國之其國也其國也其國也其國也  
其國國之其國也其國也其國也其國也  
其國國之其國也其國也其國也其國也  
其國國之其國也其國也其國也其國也  
其國國之其國也其國也其國也其國也  
其國國之其國也其國也其國也其國也  
其國國之其國也其國也其國也其國也  
其國國之其國也其國也其國也其國也  
其國國之其國也其國也其國也其國也

其國國之其國也其國也其國也其國也  
其國國之其國也其國也其國也其國也  
其國國之其國也其國也其國也其國也  
其國國之其國也其國也其國也其國也

其國國之其國也其國也其國也其國也

其國國之其國也其國也其國也其國也

其國國之其國也其國也其國也其國也

平康公集卷之四

以自叙其生平事其下因係至誠可為者其後  
 此ルル拂方其多事其下其廿二年九月十日者  
 既其後故所居二年己巳四月廿五日何事其  
 柳念乃其家府推之其下保其其其其其其  
 其其其其其其其其其其其其其其其其其其  
 其其其其其其其其其其其其其其其其其其  
 其其其其其其其其其其其其其其其其其其  
 其其其其其其其其其其其其其其其其其其其  
 其其其其其其其其其其其其其其其其其其其

卜務首

夕務首



--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

本日夕方  
 有拂乃極限  
 先因六分  
 正向  
 上

天宮  
 為  
 期

松大信正の事、山陰郡物部に於て、  
其の父正子も亦同郡物部人也、  
正子、其の母を以て、  
改名して、正信と爲す、  
正信、其の母を以て、  
改名して、正信と爲す、  
正信、其の母を以て、  
改名して、正信と爲す、

四月廿

善也代印  
エフカア知カス

副真多務卿

同下

正信多務卿

正信、其の母を以て、  
改名して、正信と爲す、  
正信、其の母を以て、  
改名して、正信と爲す、  
正信、其の母を以て、  
改名して、正信と爲す、  
正信、其の母を以て、  
改名して、正信と爲す、

西暦の事、正信、其の母を以て、  
改名して、正信と爲す、

日本書紀、正信、其の母を以て、  
改名して、正信と爲す、

コトトクニ又

外務卿、正信、其の母を以て、  
改名して、正信と爲す、

同下

外務卿、正信、其の母を以て、  
改名して、正信と爲す、

同下

Blank red-lined writing area on the right page.

正嘉靖初年... 十月... 始

... 下... 始

... 始

... 始

... 始

... 始

... 始

... 始

又閣下... 美佛米伐... 牛... 云... 辰... 其... 七... 唐...

此... 交... 云... 亦... 年... 山... 之... 近...

十... 首



高杉右衛門尉 五月十日  
初是古急速 以返系之 子孫之 亦由及在  
其心

子孫之 五月十日

外務省

副局長 佐野

閣下

吉原宗則 轉

按甲の 五月十日  
七十二年 五月十日  
下國信 五月十日  
其の 五月十日  
一而 五月十日  
亦亦 五月十日  
乃乃 五月十日

卜 務 自

あつちやんや通りしあつちやんはあつちやん  
あつちやんはあつちやんはあつちやんはあつちやん  
あつちやんはあつちやんはあつちやんはあつちやん

あつちやんはあつちやん

あつちやんはあつちやん

あつちやんはあつちやん

あつちやんはあつちやん  
あつちやんはあつちやん